

平成二十七年 入学試験問題

国語

第三回

【注 意】

- ・試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- ・問題は一ページから五ページまでです。
- ・解答はすべて解答用紙の解答らんに記入してください。
- ・字数制限のない問題について、一行分の解答らんに二行以上解答してはいけません。
- ・解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

1 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

(1) 「世界の中の日本文化」を、日本国内の視点からではなく「世界の読者」の視点から見ることに。この視点の切り替えこそ、いま必要とされている。

では、その「世界の読者」の視点に立つということは、どういうことなのだろうか。

ここでいう「世界の読者」とは、アメリカとか、韓国かんこくというような、どこか特定の国や地域の読者という意味ではない。「日本の外の世界のどこかにいる、しかも、日本の文学・文化とは直接関わりをもたない、想像上の読者」という意味だ。

たとえば、いま目の前にある日本語の作品（文学作品、アニメなど）を、「世界のどこかにいる読者がこれを読んだら（見たら）、どのように思うだろうか？」と想像してみよう。それは、日本に住む、日本語を読める読者が日本文学などを楽しむのとはどう違うだろうか。それはちょうど、現代の日本において一九世紀のロシア文学を読んだりする体験に似ているかもしれない。

そのような「世界の読者」の視点から日本文化を見ると、日本の読者とはその読みかたが違ってくるはずだ。

自分の「ボゴ(ア)で読む文学作品では、作品の舞台ぶたいや作家の境遇きょうぐうに自然に親近感をもつだろう。外国語の、自分から遠い文化で生まれた作品には、そのような親近感はない。しかし、時代や国境を越えて読み継がれる、古典や名作といわれるような作品には、文化背景がちがってもなお作品を「読ませる」なにかがあるはずだ。

世界各地で、実際に日本文学がどう読まれ、日本文化がどう楽しまれているか、その実態を知っていても知らなくても、日本文化が「世界の読者」からどう見えて、どう思われるだろうか、と想像することはできる。

このように想像することは、簡単なことのようなのだが、意識しないとけっこう難しいかもしれない。しかし、このような考えかたにこそ、いまの「文化」について考えるうえで大事なヒントが隠かくされている。

(3) いまの日本で、「日本文化（文学）の世界的読者」についての情報は、以前より簡単に手に入るようになった。

これまで、「世界で日本文化（文学）がどう読まれているか」というテーマで、世界の日本文化の受容の実態を調査した本は、結構多く、シユッパン(イ)

されてきた。そのような書物には興味深い事例が数多く紹介しょうかいされていて、学ぶことも多い。また、最近ではインターネットを通してそのような情報がリアルタイムで手に入るようになった。

しかし、そのような紹介でも、日本人が興味をもちそうな話題を、日本からの視点で語っていることが多いのではないだろうか。

たとえば、国内で日本文化が議論されるときには、「日本の文化が海外で人気がある」ことが、「日本はなぜ世界で大人気なのか？」と読みかえられ、「それは日本人（日本文化）の○○のためだ」（○○には、たとえば「勤勉さ」「美的センス」「ものづくりの伝統」などの言葉が入る）というように、日本文化論的な安易な結論に導いてしまうことが多い。

しかし、「日本文化の人気」と、たとえば「日本人の勤勉さ」は本当に関係があるのだろうか。そのような説明は、「日本人はこんな国民だ」という自己像を確認するためであっても、歴史的に説得力のある説明とはなっていないことが多い。そして、海外の識者がそのような説明を聞くと、自慢話のように聞こえてしまうのだ。

こうした文化の語りかたは、「世界で人気がある」といつても、日本中心の視点を離はなれていない。「クールジャパン」をめぐる議論を含め、最近の日本発の文化についての議論でいちばん欠けているのは、「あえて世界の読者の視点から見る」ということではないだろうか。

いまの日本の「世界で日本文化がどう読まれているか」という語りかたが日本中心の視点ではないか、という問いかけに対し、「それで何が悪いのか。よいものは必ずいつか伝わるのだから、本物の日本文化をそのままに発信することのほうが重要だ」と考える人もいるだろう。

確かに、日本では、説明せず黙だまって自分の信ずることを行うことは「つましき」として評価されることが多い。欧米おうえいでは、日本文化などのアジアの文化は、（よくも悪くも）簡単に言葉に表すことのできない、シンピ(ウ)的な文化というイメージがあるとされてきたし、そのことにより日本文化が尊(エ)敬(カ)のまなざしで見られてきたという一面もある。

しかし、世界中の人々が日本の文化に接するキカイ(イ)が増え、日本の文化についての情報があふれている現在、そのような、「よいものは必ずいつか伝わる」、黙(オ)ってよいものを発信するべきだ、という、いわば職人芸的なシセイ(カ)だけでは、誤解を生み、広げてしまうことが多いのではないだろうか。

(6)

自分と同じ常識を共有していない世界の人々に、自分の考えをわかりやすく伝えることは、現代の世界に生きるうえで重要なスキルになりつつある。そして、そのためには、そうした人々が何を考えているかを想像することが必要不可欠だ。

このことは、日本の文化の伝えかたに限らず、日本で作られた製品や作品を世界にどう届けるか、また、政治問題や価値観の違いをめぐる外国と摩擦まさつがあったときに海外に向けてどう説明するか、という問題にも通じるだろう。

(河野至恩『世界の読者に伝えるということ』)

問一 — (1) 「『世界の中の日本文化』を、日本国内の視点からではなく『世界の読者』の視点から見ること。この視点の切り替えこそ、いま必要とされている。」とありますが、この「『世界の読者』の視点から見る」とはどうすることですか。七十字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問二 — (2) 「現代の日本において一九世紀のロシア文学を読んだりする体験」とありますが、これはどのような体験ですか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 文化的背景が共通しているため親近感のわく作品を、自分の目で評価するという体験。

イ 自分の持っている常識とは全く異なる常識に従って書かれた作品を、自分の価値観で評価するという体験。

ウ 日本の外の世界であるにもかかわらず、価値観を共有している国の作品を日本語で読むという体験。

エ 自分の国で書かれた作品を、他の国の文化や慣習にのっとって評価するという体験。

問三 — (3) 「いまの日本で、『日本文化(文学)の世界の読者』についての情報は、以前より簡単に手に入るようになった。」とありますが、筆者は、これまでの「日本文化」の世界での読まれ方の紹介しょうかいがどのようであったと述べていますか。解答らんに行かず、合わせて四行以内で答えなさい。

問四 — (4) 「世界で日本文化がどう読まれているか」とありますが、同じ内容で言い換える時、次の文章の空らんに入る最もふさわしい二字の言葉を本文中から抜き出して答えなさい。

《日本文化がどのように 二字 されているか。》

問五 — (5) 「尊敬」と同じ構成の熟語じゆくごを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 巨大きよだい イ 断続 ウ 握手あくしゆ エ 地震じしん

問六 — (6) に入れるのにふさわしい言葉を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア かえつて イ あえて
ウ かるうじて エ しいて

問七 — (ア) (オ)のカタカナを漢字に書き直しなさい。

問八 筆者はなぜ「世界の読者の視点」に立つ必要があると言っているのですか。その理由としてふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日本文化が人気を集めている背景を考えるのに、日本人は歴史的背景にばかり着目しているため、より広い視野で物事を考える必要があるから。

イ 自分と異なる常識を持つ人がいると想定した上で、自分の考えをしっかりと伝えられるよう工夫することが、現代を生きるのに不可欠なスキルだから。

ウ 豊かな日本文化をさらに世界に広めるためには、市場を調査してもっとも求められているものを輸出していくべきだから。

エ 「日本人がどのような国民であるか」を考えるためには、日本中心の視点をいったん離れ、客観的な視点から見つめることが必要だから。

② 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

小学校の入学祝いに、おばあちゃんが図鑑を買ってくれた。大判の、12巻セットになったやつ。「昆虫」「植物」「動物」「鳥」「恐竜」なんてふうに一巻ずつテーマが決まっています、どのページにもたくさんイラストと写真が載っていた。

あたしの家は、はつきり言って、めちゃくちゃボロい。なんだって、おばあちゃんが生まれ育った木造二階建てなのだから。あたしがそれをつくづく思い知らされたのは、その図鑑が届いたときだ。

居間の本棚に、十二冊全部をずらりとならべたとき。あ、ここにだけ色がある、と思った。そして、思わず家のなかをぐるりと見まわしてしまっただ。あつたのは、茶色だけ。壁や襖や天井、ちゃぶ台に箆笥。濃淡はあつても、どれも茶色。あとはせいぜい、座布団や暖簾の紺色くらい。あたしはこっそりため息をつき、あーあ、ボロっちなあ、と思ったのだった。

それはさておき、とにかく十二冊の図鑑はカラフルで、それだけであたしを魅了した。順番に一ページ一ページゆくりゆくりめくっては、それぞれ舐めるようになってきた(が、残念ながら、「恐竜」の図鑑だけはさつさと見終わってしまった。なぜって、やたら茶色が多かったから)。

八冊目に手に取ったのは、「宇宙」だった。

重い表紙をめくるとまず、夜空の写真があつた。たくさん星がキラキラ輝いていて、夜空は思っていたよりずっと青かつた。

つきにあつたのは、地球のページ。真っ黒な宇宙に、**A** 浮かぶ青い星。うちのボロ家が建っているのが、こんなきれいなところだったなんてびっくりして、それからたまらなくうれしくなつた。

そのつきは、月のページだった。地球よりずっと小さい月は、灰色でここぼこ。あたしは、月に生まれなくてよかつた、と **B** 思つた。

それから見たのは、太陽のページ。太陽のページは真っ赤だった。地球の直径の約109倍の、大きな星、太陽。109倍というのがどれほどの大きさはぜんぜんわからなかつたけど、すっごく大きいんだ、というのはちゃんとわかつた。

さらに図鑑をめくっていくと、太陽より大きい星々のページがあつた。そのページでは、太陽は、ピンピンにとがらせた鉛筆で、ちゃんと突いたくらいの「点」だった。だからはじめは、そこに太陽が描かれていること

にさえ気づいていなかった。というより、あたしの目は、そのページをひらいたときから一か所に釘づけになつてた。

ホットケーキより大きく描かれた、赤い星。図鑑からはみだすように描かれた、どこかい星。

赤色超巨星・ベテルギウス。

実際は、太陽とベテルギウスのあいだに、いくつかの星が描かれていた。おかあさんの好きなオレオよりすこし大きいアンタレスや、おばあちゃんの好きなしょう油せんべいくらいの大きさのミラという星なんか。でも、そんなものはどうでもよかつた。ベテルギウスに打ちのめされたあたしは、図鑑を閉じると同時に声をあげて泣きだした。

「どうしたの、琴海」

おかあさんとおばあちゃんに挟まれて、**C** 訳を訊かれたけど、なにも答えることができなかつた。嘔吐しながら泣きじゃくることしかできなかつた。

十四歳のいまなら、すこしは説明できる。

あたしは、宇宙の途方もない大きさに **(3)** すくみあがつたのだ。

ホットケーキサイズのベテルギウスの前では、太陽なんて、アリが運ぶクッキーのカスみたいなものだ。地球の109倍もある太陽が、小さな点なのだ。そして、宇宙というところには、ベテルギウスみたいな星が **D** 浮かんでいる。

そのころのあたしの世界といえは、自分の家と保育園。そして、そのあいだにあるスーパ―や友だちの家くらい。そんなあたしにとって宇宙の大きさは、想像をはるかに超えて、まさに恐怖だった。

あたしのうちは、宇宙のどこにあるんだろう、と考えた。きつと、すみつのすみつのすみつこだろう、と思つた。でも、ベテルギウスの前に引きずりだされたら、あたしなんてひとたまりもない。

宇宙はとてつもなく大きい。なのに、あたしはすっごくちっぽけ。

あたしなんか、いてもいなくても、宇宙の図鑑はなにもかわらない。いまでも、ベテルギウスを思うと怖くなる。 **(4)** ふだんはたいがい忘れて

るけど、青みがかつた夜空を見上げたときや、本棚の図鑑に目がいったとき、あたしは真っ赤なベテルギウスを思いだす。そして、宇宙の大きさに心がすくむ。ちよつとつかつこつけて言うなら、生きてる意味とか、生まれてきた理由なんてものに振りまわされてしまう。

だからあの日、あたしは震えるほど「すごい」と思った。
宇宙を閉じこめるみたいな感覚だから。

第二理科室で、横山くんがそう言ったときのことだ。

それは、七月の理科の時間だった。
顕微鏡で下ジョウの尾びれを見たあと、プランクトンを観察することになった。

でも、プランクトンの観察はおまけみたいなものだった。時間があまったのならやってなさい、くらいなの。だからか、班のメンバーはみんなやる気がなかった。理子はなぜだか怒ったような顔つきで、窓の外をじーっとらんでいたし、綿森さんは怖いものなんかないだろうなって感じのおとなびた表情で、頬づえをつけてノートになにか書いていた。三田村くんなんて、ほかの班のところに遊びにいっちゃって、近くにさえない。作業はすっかり横山くんまかせ。

悪いなあ、と思った。でも、手伝えなかった。だって——
自慢じゃないが、あたしは顕微鏡ってやつが苦手だ。

一年の一学期、葉っぱの表面を顕微鏡で観察するという授業があった。そのとき、カバーグラスをひとりですも割ってしまった。おー、見えてきた、といい気になって、接眼レンズをのぞきながら対物レンズをぐんぐん下げ、あつと気づいたときにはカバーグラスをクシャッと割っている、というのを五回。

毎年、そのパターンでカバーグラスを割る生徒は大勢いるらしい。なんせ、一年坊主だし。でも、さすがにひとりですも割というおつちよこちよいは、あたしだけだったそう。理科の赤松先生に、「野田さん、五枚は新記録だよ」と散々わらわれた。

そんなわけで、一年経っても、顕微鏡やカバーグラスに触れる気にはなれなかったのだ。でも、みんなが露骨にサボってるから、せめて「いい見学者」でいようと思って、あたしは横山くんのそばでおとなしくすわっていた。

横山くんは、騒がしい理科室のなかで、とにかく黙々と作業をしていた。プランクトンが入っているという（見た目には、ちよつと濁った、ただの水が入ってる）ビーカーにスポイトを突っこんで、水をちよつと吸い上げると、その水を一滴、スライドグラスの上に垂らした。そして、スポイトをピンセットに持ちかえると、カバーグラスをサツとつまんで、丸い水

滴の上にそつとかぶせた。

あざやかだった。まるで、ご飯を平らげて「おかわり」とお茶碗を差したすくらしいスムーズな一連の動き。おみごと、という感じ。でも、理子も綿森さんも無反応。というより、見ていない。三田村くんは帰ってもこない。それで、あたしくらいにか言わなきゃって気になって、ふと頭に浮かんだことを訊いてみた。

「カバーグラスって、すぐ割れるでしょ。触るの、怖くない？」

「怖いよ」

対物レンズを調節しながら、横山くんは意外にもあつさりそう答えた。

「えっ、そうなんだ」

「うん。カバーグラスをのせるときは、緊張する。そこに宇宙を閉じこめるみたいな感覚だから」

それを聞いた瞬間、すごい、と思った。なんて勇敢なんだ、と思った。ベテルギウスみたいな星がボコボコ浮かんでいる宇宙を、「閉じこめる」と言ってしまう横山くんを、本気ですごいと思った。猛烈にすごいと思つたせいで、あたしはただただ目を見開いていた。すると、ドン引きしてる勘違いしたのか、横山くんはみるみる顔を赤らめた。

「ごめん、へんなこと言つて」

「あ、ううん、ぜんぜんへんじゃないって。やっぱり生物部はちがうねー」
ほんとは、もつとちゃんとしたことを、まじめに言いたかった。でも、できなかった。

⁽⁵⁾胸がざわざわざわして。

ざわざわざわざわ。

くすぐつたいような、苦しいような。

そのときからだ、横山晴彦くんが気になりだしたのは。

(香坂直『ストロベリー・ブルー』)

問一

——(1)「あたしを魅了した。」とありますが、なぜ琴海はそのように感じたのでしょうか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア とにかくカラフルで、それまで何も考えていなかった自分に生きる意味や生まれてきた理由を考えるきっかけをくれたから。

イ 大好きなおばあちゃんから、小学校の入学祝いとしてプレゼントしてもらったもので、たまらなくうれしくなったから。

ウ どれも茶色ばかりの家の中で、図鑑だけが色とりどりで見栄えのするものであったから。

エ うちのボロ家が建っているのが、たくさん星が輝く宇宙に浮かぶ青く美しい地球であると教えてくれたから。

問二

——(2)「青」とありますが、「青」を使った次の一～五の慣用句の意味を後の「意味」ア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

一 青菜に塩 二 青写真を描く 三 尻が青い

四 青い鳥 五 青田買い

【意味】

ア 計画や見通しをたてること。

イ まだ未熟であること。

ウ 急に元気がなくなってしまうこと。

エ 幸福は身近にあること。

オ 将来に期待して卒業前の学生を、会社が採用すること。

問三

——(3)「すくみあがったのだ。」とありますが、これは琴海のどのような様子を表していますか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア おそろしさのあまり身が縮む イ 感動して立ち上がる

ウ 驚いて何もかも投げ出す エ 悲しみのあまり我を忘れる

問四

——(4)「ふだんはたいがい忘れてるけど、青みがかった夜空を見上げたときや、本棚の図鑑に目がいったとき、あたしは真っ赤なベテルギウスを思い出す。」とありますが、これは「琴海」のどのような経験を述べたのですか。八十字以内で答えなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること。)

問五

——(5)「胸がざわざわざわして。ざわざわざわ。くすぐったいような、苦しいような。」とありますが、なぜ「琴海」はこのような気持ちになったのでしょうか。解答らんに行かず、合わせて四行以内で答えなさい。

問六

——(6) [A] [D] に入れるのにふさわしい言葉を次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア しみじみ イ やいやい

ウ ボコボコ エ ぽこつと

問七

——(7) 次の文章を本文中の最もふさわしい箇所かしよに戻すとき、その直前部分の五字を答えなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること。)

そんなことが一気に押し寄せてきて、あたしはベテルギウスを前に泣くしかなかったのだ。

問八

——(8) 本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 横山くんが作業している様子を見て、琴海はまるで宇宙を閉じこめているようだと感じた。

イ 太陽の直径は地球の109倍であると聞いて、琴海はどんな大きさか明確に想像してしまい、非常に驚いた。

ウ 琴海が図鑑を読んで泣き出したのは、宇宙のあまりの大きさに感動したからである。

エ 班のメンバーのあまりにもやる気のない様子を見て、自分くらいはよい見学者になろうと思った。

